

令和6年度 事業報告

社会福祉法人 博愛会
ハートニー松葉

目 次

I. 法人事業報告

1. 令和6年度総括.....	2
2. 令和6年度最重点的・重点的な取り組み.....	2
3. 運営.....	6

II. サービス事業別報告

1. 軽費老人ホーム ケアハウス ハーモニー松葉.....	14
2. 老人デイサービスセンター ハーモニー松葉.....	22

III. 今後の課題と方針.....	32
--------------------	----

I. 法人事業報告

1. 令和6年度総括

令和6年度、法人経営に影響を与えた点について報告する。

<財務面>

経常増減差額が△4,156 千円で（前年度比 1,478 千円増加）赤字となり、経常増減差額は△2.7%であった。

赤字の主要因は、人件費の増加であり、前年度比で 11,760 千円と大幅な増加となったことである。人件費率は 62.0%で前年度比 1.6%の増加である。令和 6 年度からの退職共済掛金の新規加入により退職給付費用は前年度比 1,041 千円増加し、最低賃金の上昇、宿直員の雇用時間の変更、職員増配置により非常勤職員給与は前年度比 6,970 千円増加、定期昇給や残業により職員給料は前年度比 1,685 千円増加している。

介護保険事業は 1 日平均利用者数 30.7 名と当初の目標値を達成し、収益は前年度比で 12,650 千円、老人福祉事業は稼働入居率 99.4%となり、収益は前年度比 1,529 千円と大幅に増加した。しかし、経常増減差額を黒字にするだけの収益になっていない。LED 化やエアコンの更新、送迎車両の購入により減価償却費が前年度比 1,655 千円増加したことも費用が増えた要因である。

<人材面>

デイサービスの非常勤介護職員と運転手の離職があったが、欠員に伴う採用を行うことができた。デイサービスの非常勤職員数は前年度比で 4 名、ケアハウスは 1 名増加し、非常勤職員の総勤務時間では、デイサービスで 3,600 時間/年、ケアハウスで 1,100 時間/年増えている。余裕をもった人員体制であり、職員の急な病欠等への対応ができています。一方で、人件費率の上昇があるため、離職に対応しつつ、過剰配置にならないように緻密な採用計画を立てる必要がある。採用では若い職員の応募が少なく、全職員の平均年齢が 60 歳を超え、中高年の割合が大きくなっている。デイサービスの運転手は応募が少なく、雇用に余裕がない状況が続いている。

<利用者処遇面>

利用者アンケートでは前年度と比較して満足度に大きな変化はないが、職員の接遇、イベント充実、日常支援の安定性が高評価だった。ケアハウスの利用者満足度調査では、食事について良好（大変良い・良い）は 42%で、他の項目（住み心地、職員対応、入浴環境、他入居者との関係）と比較すると低値だった。具体的には食事について「食堂で会話しづらい」「米の炊き方が不安定」などの声があった。毎月、食事会議で、厨房業者と協議をして、食

事についての施設側の意見を伝え、サービス向上を図った。

非常勤職員の増員により職員体制が強化され、急な病欠等への対応が可能な体制となり、利用者支援の安定につながった。非常勤職員の勤務時間は前年度比デイサービス年 3,600 時間、ケアハウス 1,100 時間増加し、その多くは直接処遇に充てられた。

行事については、コロナ後の活動制限を経て、納涼祭を再開し、ケアハウス入居者、デイサービス利用者、家族を対象として実施した。新規で地域交流イベントを年 4 回実施し、地域住民、入居者、利用者同士が交流する場の提供を行った。

B C P（感染症・自然災害）と防災対応としては、備蓄倉庫の新設や B C P 研修・訓練、災害訓練を法定通り実施し、災害時の処遇継続体制を強化した。

2. 令和6年度の最重点的・重点的な取組み

最重点的な取組み

<目標>

- (1) 事業活動収支で積立資金を生み出せる事業内容への見直し
 - ・各事業の事業活動とともに黒字化し、将来の設備の修繕のために 2,000 千円の積立を行う
- (2) 健全経営に向けた経営目標・指針の達成
 - ・各事業で定量的・定性的な目標値を定め、実績との差分を 1 か月ごとに見直す。都度、目標の再設定と解決策を実行する。
- (3) 法令遵守
 - ・感染症の予防及びまん延の防止、認知症介護に係る基礎的な研修の受講、虐待防止、業務継続計画の策定等を法令に従い実施する。
- (4) 人材育成
 - ・当法人に合わせた人事評価制度とキャリアアップ制度を構築する。外部研修の積極的な参加と施設内伝達講習を実施する。
- (5) 職場環境の整備
 - ・業務の配分による職員間の業務量の平準化を行う。
- (6) 地域と共存する施設の構築
 - ・地域に向けた行事（納涼祭等）を再開する。

<結果>

- (1) 各事業の事業活動では、経常増減差額はケアハウス事業△1,719 千円、デイサービス事業△2,006 千円、法人単位で△4,156 千円（前年度比+1,478 千円）で黒字化は実現できず。将来の設備の修繕のための 2,000 千円の積立目標は達成した。
- (2) ケアハウス事業では入居稼働率、デイサービス事業では 1 日平均利用者数を定量的な目標値として定めた（表 1）。デイサービス事業については、毎月のミーティングで目標値を示し、実績との差分の原因と解決策を全体で協議した。期中で当初の目標値を達成し、さらに伸びる見込みがあったため、31 名に目標値を変更した。ケアハウス事業については、四半期の運営会議で実績の確認を行った。当初から高い目標値を設定し、目標

値を下回ることなく経過したため期中での目標再設定は行わず。

表1 各事業の目標値と実績値

事業	目標値	実績値	差分
ケアハウス	稼働率 98.6%	稼働率 99.4%	+0.8%
デイサービス	1 日平均利用者数 31.0 名	1 日平均利用者数 30.7 名	-0.3 名

(3) 法令に従い、義務付けられた委員会の開催及び研修会・訓練の実施、介護業務に直接従事する無資格の職員を対象とした認知症介護に係る研修の受講を実施した。

(4) 人事評価制度では、管理者への評価を複数の立場から集める 360 度フィードバックを 11 月に実施した。外部研修の受講と伝達講習を行った(表2)。キャリアアップ制度構築には至らなかった。

表2 令和6年度 外部研修参加一覧

日程	研修名・委員会名	開催場所	主催者	参加者
6月27日	2024 年介護報酬改定	オンライン	東京都高齢者福祉施設協議会	事務長
7月4日	令和6年度生産性向上セミナー	オンライン	東京都福祉保健財団	正職員
7月27日	介護報酬請求事務に関する研修	オンライン	合同会社キャリアワークス代表	デイサービス生活相談員
7月19日	デイサービス意見交換会	飯田橋レインボービル	東京都高齢者福祉施設協議会	デイサービス生活相談員・介護職員
8月28日	会計実務研修会	オンライン	福祉会計サービスセンター	ケアハウス事務員
9月9日	摂食嚥下機能支援のいろはを見直そう	オンライン	南多摩保健所	デイサービス介護職員
9月18日	在宅療養者の急変時対応の現場について	稲城市立病院	稲城市消防本部	デイサービス看護師
11月7日	「災害救助法」のはじめの一步	稲城市福祉センター	南多摩ブロック合同社会福祉協議会	事務長
11月20日	軽費老人ホームにおけるレクリエーションについて	研究社英語センタービル	軽費分科会	ケアハウス介護職員
11月25日	社会福祉法人が目指す地域包括ケアについて	研究社英語センタービル	東京都高齢者福祉施設協議会	ケアハウス生活相談員
11月29日	アンガーマネジメント研修	家の光会館	東京都高齢者福祉施設協議会	デイサービス介護職員
12月4日	令和6年度レジオネラ症防止対策講習会	東京都南多摩保健所	南多摩保健所	ケアハウス用務員
12月7日	認知症ケアについて考える	飯田橋レインボービル	東京都高齢者福祉施設協議会	デイサービス介護職員

12月3～5日	応急手当普及員講習会	マস্যビル	稲城市消防本部	ケアハウス介護職員
2月10日	認知症介護基礎研修	オンライン	社会福祉法人東北福祉会	ケアハウス介護職員

※延べ受講者数：ケアハウス 11 名、デイサービス 11 名

※外部研修のうち伝達講習数：2 件

(5) 職場環境の整備

- ・業務の配分による職員間の業務量の平準化を行う。

(6) 地域に向けた最大の行事である納涼祭を再開した。稲城第七小学校のとの交流（展覧会の招待等）を再開した。新規イベントとして、地域住民と入居者、利用者が交流する場を提供する「地域交流イベント」（7 月、11 月、1 月、3 月に実施）を開始した（表 3）。

表 3 地域交流イベント

日程	内容	参加人数（入居者と利用者を除く）
7月18日	体操会&歌の祭典	35名
11月7日	体操会&お汁粉会	38名
1月23日	転倒予防体操会&おやつ会	26名
3月20日	ハーモニーバンド、体操会&歌の祭典	43名

重点的取り組み

<目標>

(1) 広報活動の充実

- ・広報委員会を設立し、法人自体やサービスの提供価値を広く浸透させ、入居率や稼働率の上昇、優れた人材の確保、地域との関係性の構築につなげる。

(2) ICT 化の充実

- ・事務業務のシステム導入をすすめ、限られた人員での事務業務を標準化し、業務時間を短縮する。文書管理の電子化を行う。

(3) 組織体制の整備

- ・部門を超えた協力体制づくりと業務の効率化を目標とする。

<結果>

(1) 5 月に広報委員会を設立し、委員会を年 4 回開催した。今後取り組むべき広報とあり方について協議、施設紹介動画を作成し、ホームページに掲載した。ホームページ閲覧数増加のための対策ツールの必要性を協議した。

(2) ケアハウス・デイサービスの介護記録システムの令和 6 年度からの運用と勤怠管理システムの導入準備及び令和 7 年度からの運用開始を決定。介護記録システムを導入す

ることで、記録の時間を直接利用者支援の時間に充てることや残業時間の短縮を目標とした。残業時間は、前年度比で正規職員は一人当たり＋7.8 時間（約 18%増）、非正規職員は＋2.4 時間（約 10%増）と増加したが、記録システム導入により職員の業務負担と記録ミスは大きく減っている。

表4 残業時間の前年度比較

年度	区分	職員数(平均)	残業時間合計	一人当たり 残業時間（年間）
令和5年度	正規職員	8人	352.5時間	44.1時間
令和6年度	正規職員	8人	415.5時間	51.9時間
令和5年度	非正規職員	29.17人	738.0時間	25.3時間
令和6年度	非正規職員	32.33人	894.5時間	27.7時間

（3）各種委員会にケアハウス、デイサービスの非常勤職員も参加してもらい、所属は混合で横断的に委員会活動を行った。また、地域貢献事業や納涼祭等の法人の行事について、職員会議内で協議を行い、両部門で進めた。協力体制の意識はあるが、業務の効率化までには至らなかった。

5. 運営

（1）理事会・監事・評議員会について

- ・理事会は定款に基づき、年4回開催し、理事6名（表5）の決議による業務執行の意思決定を行った。理事長の職務執行状況の報告は4カ月を超える間隔で2回行った（表6）。
- ・評議員会は定款に基づき、定時評議員会を年1回開催した（表7）。定時評議員会では評議員7名（表1）の決議による業務・経営組織の事後的な監督を行った。
- ・監事は定款に基づき、監事監査および理事会・評議員会に計5回出席し業務執行の監査と監査報告を行った。令和6年5月10日（金）に当法人の監事による令和5年度事業報告及び決算諸表の監査を実施した。

表5 役員、評議員、評議員選任・解任委員（令和6年4月1日現在）

役職	定数	氏名
理事	6	城所正彦（理事長）、宮澤秀弘、湊上宏美、吉野貴美子、青木正文、浅利洋平
監事	2	角田等、木村重樹
評議員	7	鹿島正二、笹久保博子、今泉浩史、西畑博仁、角田政信、佐藤久美子、種田匡延
評議員選任・解任委員	3	角田享（外部委員）、木村重樹（監事）、浅利洋平（事務局）

表6 理事会開催日程と案件について

回	実施 年月日	理事 出席数	監事 出席数	主要な付議案件	審議 結果
1	5月 22日	6	2	第1号議案 令和5年度事業報告について 第2号議案 令和5年度決算報告について 第3号議案 次期役員選任案について 第4号議案 令和6年度定時評議員会招集決議について 報 告 理事長・業務執行理事の職務執行状況について	可決 可決 可決 可決
2	8月 29日	6	2	第5号議案 就業規則の一部改正について 第6号議案 非常勤職員就業規則の一部改正について 第7号議案 給与・退職・旅費規程の一部改正について 第8号議案 管理規程の一部改正について 第9号議案 個人情報保護規程の一部改正について	可決 可決 可決 可決 可決
3	10月 28日	4	1	第10号議案 令和6年度補正予算（第1号）について 第11号議案 給与・退職・旅費規程の一部改正について 報 告 理事長・業務執行理事の職務執行状況について	可決 可決
4	3月 24日	6	2	第12号議案 令和6年度二次補正予算（案）について 第13号議案 給与・退職・旅費規程の一部改正について 第14号議案 中期経営計画・実施計画（案）について 第15号議案 令和7年度事業計画（案）について 第16号議案 令和7年度当初予算（案）について 第17号議案 ケアハウス運営規程の一部改正について 第18号議案 デイサービス運営規程の一部改正について 第19号議案 給食業務委託契約について 第20号議案 苦情解決第三者委員の選任について 報 告 理事長・業務執行理事の職務執行状況について	可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決

表7 評議員会開催日程と案件について

	実施年月 日	評議員 出席数	監事 出席数	主要な付議案件	審議 結果
定時	6月 13日	5	1	第1号議案 令和5年度事業報告の承認について 第2号議案 令和5年度決算報告書の承認について	可決 可決

（2）評議員選任・解任委員会について

・評議員選任・解任委員会は、定款に基づき、年1回開催した（表8）。評議員選任・解任委員3名の決議による次期評議員の選任についてを議題とした。

表8 評議員会選任・解任委員会の開催日程と案件について

回	実施年月 日	委員 出席数	役員 出席数	主要な付議案件	審議 結果
1	4月 10日	3	2	第1号議案 次期評議員の選任について	可決

（3）人事制度・組織デザイン

①採用及び退職（表9）

・中途採用で欠員募集を行った。採用活動はハローワーク、当法人ホームページ、Air

ワーク、施設内外掲示、稲城市社会福祉法人連絡会主催の福祉のしごと相談会、有料の広告媒体を利用した。

- ・ケアハウスは宿直員 1 名、デイサービスは介護職員 6 名、運転手 3 名を採用した。
- ・デイサービス介護職 3 名、運転手 4 名が退職した。
- ・離職率はケアハウス 0%、デイサービス 27.4%であった。

表 9 採用及び退職状況（令和 6 年度中）

部門	形態	採用者数	退職者数	期首 在籍者数	期末 在職者数	離職率 (%)
ケアハウス	常勤	0 名	0 名	4	4	0
	非常勤	1 名（宿直員 1 名）	0 名	10	10	0
	計	1 名	0 名	14	14	0
デイサービス	常勤	0 名	0 名	4	4	0
	非常勤	9 名（介護職員 6、運転手 3）	7 名（介護職員 3、運転手 4）	20	23	32.6
	計	9 名	7 名	24	27	27.4

※離職率（%）：退職者数÷平均在籍者数（（期首在籍者数+期末在籍者数）÷2）×100

②配置

- ・各事業を適切に運営するため、次の職員配置を行った（表 10）。

表 10 部門別職員配置状況（令和 7 年 4 月 1 日現在）

*ケアハウス部門（実人員）

	正規職員	非正規職員
施設長	1 名	
事務長	1 名（兼務 1 名）	
生活相談員	1 名	
介護職員	1 名	1 名
事務員	1 名	
用務員		5 名（兼務 2 名）
宿直員		6 名（兼務 2 名）
合計	5 名	12 名

※事務長はデイサービス管理者を兼務

※用務員兼宿直員が 2 名在籍

*デイサービス部門（実人員）

	正規職員	非正規職員
事務長	1 名（兼務 1 名）	
生活相談員	2 名（兼務 1 名）	

看護師		4名
介護職員	2名（兼務1名）	10名
運転手		8名
合計	5名	22名

※事務長はケアハウス事務長を兼務

※正規職員の生活相談員兼介護職員が1名在籍

- ・資格等の取得状況 ※複数の資格をもつ職員がいる（令和7年3月31日現在）

介護福祉士	9名
介護支援専門員	1名
看護師・准看護師	4名
理学療法士	1名

③評価

- ・法人規程で定めた人事評価制度により人事評価を年2回全職員に対して実施した。
- ・試験的に管理者に対して、360度フィードバックを実施した。

④育成

- ・国家資格等の取得支援を1名に対して実施した（表11）。

表11 職員への育成実績（令和7年3月31日現在）

内容	対象人数
国家資格等の取得支援	1名※実務者研修

- ・専門的知識および技術能力の向上と時流に即したサービス向上を図るため、内部研修会及び外部研修会に参加した（表2、表12）。

表12 令和6年度 内部研修会実施一覧

日程	研修名	実施者	参加職員数
4月13日	令和6年度事業計画の共有	施設長	23名
5月11日	生活を支援する認知症ケア	事務長	15名
6月8日	第1回感染症対策研修「食中毒について」	感染症委員会	19名
7月13日	メンタルヘルス研修	施設長	26名
7月18日	入居者のための安全入浴講習会	事務長	19名
8月10日	第1回身体拘束適正化/虐待防止研修「身体拘束疑似体験と不適切なケアのロールプレイ」	身体拘束適正化委員会/ 虐待防止委員会	18名

9月5日	令和6年度BCP（風水害）訓練 研修	BCPチーム	14名
10月12日	第2回感染症対策研修 「感染症勉強会、嘔吐物処理に 関して等」	感染症委員会	18名
12月22日	第1回事故予防対策研修 「普通救命講習」	稲城消防署	17名
1月11日	第2回身体拘束適正化/虐待防止研 修「アンガーマネジメント」	身体拘束適正化委員会/ 虐待防止委員会	24名
1月11日	感染症BCP研修・机上訓練	感染症委員会	7名
2月8日	第2回事故予防対策研修 「リスクマネジメント研修」	事故予防委員会	19名
2月28日	安全運転講習会	日産東京販売(株)稲城店 社員	6名
3月8日	感染症BCP研修・訓練	感染症委員会	19名

※東京都軽費老人ホームの運営の基準に関する条例で定められている通り、感染症研修、身体的拘束適正化研修、虐待防止研修、事故予防研修を各年2回実施した。BCP研修・訓練について、感染症BCP研修を2回、感染症BCP訓練を2回、自然災害対策訓練（風水害）を1回実施した。

※普通救命講習受講により普通救命資格を17名が取得した。

・委員会

東京都軽費老人ホームの運営の基準に関する条例で定められている通り、感染症対策委員会、身体拘束適正化委員会、虐待防止委員会、事故予防委員会を開催した。

表 13 委員会と内容

種別	開催日時	内容
感 染 症 対 策委員会	委員会 年 4 回（4/18、 7/31、12/17、12/26、 1/9） 研修 年 2 回（6/8、 10/12）	感染症及び食中毒の蔓延防止指針を基準に感染症の流行時期の前に懇談会や勉強会を開催し、感染症の症状や予防方法について入居者に周知・徹底を行う。
身 体 拘 束 適 正 化 委 員会	委員会 年 4 回（4/10、 7/16、11/16、1/7） 研修 年 2 回（8/10、 2/10）	身体拘束等の適正化のための指針に基づき、適正な対応が取れるよう対策を検討し、施設全体で情報を共有し、再発防止及び予防策を協議する
虐 待 防 止 委員会	委員会 年 4 回（4/10、 7/16、11/16、1/7） 研修 年 2 回（8/10、 2/10）	虐待防止に関する指針に基づき、適正な対応が取れるよう対策を検討し、施設全体で情報を共有し、予防策を協議する。
事 故 予 防 委員会	委員会 年 3 回（4/8、 9/23、3/12） 研修 年 2 回（12/22、	事故発生防止及び事故発生時対応のための指針を基に、ヒヤリハットや事故報告書を基にインシデントによるリスクの軽減、事故原因の検証

	2/8)	や再発防止策を検討し事故を未然に防ぐ方策を協議する。
広報委員会	委員会 年4回（5/30、8/12、11/19、3/17）	入居率・デイサービス稼働率の維持・向上と人材確保、地域との関わりを深めるため、法人や提供しているサービスの認知度を高め、法人や提供価値を広く浸透させる広報の在り方を協議する。

（４）広報活動の充実

- ・広報委員会を立ち上げ、広報活動について、現状の課題点を挙げて、改善活動を行った。具体的には施設の紹介動画の掲載を実施、ホームページの主な改善点や閲覧数増加のための対策ツールの必要性について検討した。

（５）施設設備の保守・修繕

- ・施設・設備の老朽化による突発的な故障に対応できるように計画的に整備や修繕を行った（表 14、15）。

表 14 実施した施設・設備整備

（単位：千円）

日程	実施内容	金額	業者	整備理由
5/23	厨房冷蔵庫 1 台	550	(株)フジマック	経年劣化に伴う入替え
8/21	デイサービス用送迎車 1 台	3,636	日産東京販売(株)	送迎車の不具合による入替え
9/9	LED 照明設備工事	15,762	キングランリニューアル(株)	2027 年末までに蛍光灯製造・輸出入禁止する条約に伴う LED 化
9/9	居室空調設備工事 1 式	4,015	キングランリニューアル(株)	経年劣化による入替え
10/11	非常用備蓄倉庫 1 式	350	DCM(株)	物品管理スペースがないため増設
3/12	非常用ポータブル電源 2 台、ソーラーパネル 4 枚	743	キングラン・メディケア(株)	BCPに基づいて整備
3/31	デイルーム介護用ベッド 1 台	209	フランスベッド(株)	利用者のケアに合わせたベッドの新規購入
3/31	プリント付き手動体重計 手すりセット 1 台	291	フランスベッド(株)	安全に体重を測定するため
3/31	スリッパ殺菌保管庫	183	(株)モノタロウ	衛生を保持するため

※整備に係る助成金

- ・LED照明交換工事・居室エアコン工事に対し、東京都よりゼロエミ省エネ事業として 10,000 千円

- ・厨房冷蔵庫に対し、東京都共同募金会より 300 千円
- ・プリント付き手動体重計手すりセット 1 台に対し、東京善意銀行より 291 千円
- ・デイルーム介護用ベッド 1 台に対し、東京善意銀行より 209 千円
- ・非常用ポータブル電源 2 台、ソーラーパネル4枚に対し、京都より非常用電源等整備促進事業補助金として 388 千円
- ・スリッパ殺菌保管庫に対し、東京善意銀行より 150 千円

表 15 実施した施設設備の修繕（100 千円以上の費用計上を記載）

日程	実施内容	金額	業者
4/30	車輛エアコン修理	114	日産東京販売(株)
11/12	車輛エアコン修理	108	日産東京販売(株)

車輛：2 件

（6）地域社会への取り組み

①やのくち子ども食堂

- ・毎月 1 回（第 4 水曜日 17：00-18：30）に子ども食堂を開催した。4 月までは弁当と会食のハイブリッドでの提供だったが、5 月以降は会食のみで実施した。

（表 16）。

表 16 やのくち子ども食堂開催実績 （単位：名）

日程	弁当	会食	人数
4 月 24 日	12	1	13
5 月 22 日		5	5
6 月 26 日		7	7
7 月 24 日		9	9
8 月 28 日		4	4
9 月 25 日		8	8
10 月 23 日		8	8
11 月 27 日		5	5
12 月 25 日		8	8
1 月 22 日		14	14
2 月 26 日		12	12
3 月 26 日		10	10
合計	12	91	103
平均	12	7.6	8.6

②つながろう矢野口会議（稲城市支援体制整備事業の第 2 層協議体）

- ・2 層協議体（民生委員・寿会・介護予防自主グループ・ふれあいセンター・支え合うみのりサポートセンター・地域の方々）で地域課題・地域の強みを出し合い、自然な形でつながりあう矢野口の姿を目標とする。役員の改選と稲城市から地域共生社会・重層的支援体制整備事業の説明、9 期事業計画に基づいたつながろう矢野口の今年度の方針について協議した（表 17）。

表 17 つなごろう矢野口の日程及び内容

日程	内容	参加者
5 月 13 日	地域共生社会・重層的支援体制整備事業の説明、役員の改選、令和 5 年度会計報告、今年度の方針	施設長

(9) 安全管理

- ・業者による防災設備の定期点検と職員による施設内設備の自主点検を実施した（表 18）。
- ・消防計画に従って総合防災訓練・自主避難訓練を実施した（詳細はケアハウス事業報告に記載）

表 18 実施した定期点検（保守契約内）

日程	内容	業者
7 月 23 日	消防用設備等保守点検（年 1 回）	大石建設(株)
常時	昇降機 遠隔監視メンテナンス	ジャパンエレベーターサービスグループ
5 月 23 日、8 月 29 日、11 月 28 日、2 月 20 日	昇降機設備 保守	ジャパンエレベーターサービスグループ
4 月 24 日、6 月 23 日、8 月 10 日、10 月 17 日、12 月 16 日、2 月 15 日	電気工作物月次点検	庄司電気管理事務所

(10) 法人借入金償還状況について

- ・当期は償還金はなし。

(単位：千円)

借入先	当初借入額	償還済額	当期減	借入残額	使途
(独)福祉医療機構	20,000	0	0	20,000	経営資金

※元金のみ記載している。20,000 千円の借入について、令和 2 年 10 月に借入れ、令和 7 年から償還開始、令和 12 年で完済予定。貸付利息 0.250%。毎回元金均等償還額 327 千円

Ⅱ. サービス事業別報告

1. 軽費老人ホーム ケアハウス ハーモニー松葉

《重点的取り組み》

(1) 入居者処遇

①食事サービスの充実

<目標>

- ・食事は入居者の健康保持及び増進、疾病予防のために欠かせないものであり、さらに生活上の楽しみのひとつとして関心の高い事柄でもある。食事は入居者の QOL を高めるためにも必要な要素であるため、健康増進及び食事に対する満足度の向上を目的に食事サービスの充実を図る。
- ・季節にちなんだ行事食(お花見弁当、夏祭り屋台料理、敬老祝い膳、クリスマスディナー、おせち料理等)、特別食(刺身食、誕生日食等)や企画食(外食ツアー、流しソーメン、秋の味覚祭り(さんま)、焼き芋会、餅つき(お汁粉)、ブリの会)など多様な食事を提供することで食べる楽しみを感じてもらう。

<結果>

- ・刺身食(冬季 11 月～3 月)：計 87 食提供。
- ・誕生日食(3 ヶ月に 1 回開催)：計 115 食、日曜日の昼食にて提供。
- ・秋の味覚祭：10/10 に昼食として焼きサンマを 18 食提供。(デイ利用の入居者除く)
- ・流しソーメン：7/6 に昼食として 5 食提供。(他入居者は食堂にて)
- ・秋の味覚祭：10/10 に昼食として焼きサンマを 18 食提供。(デイ利用の入居者除く)
- ・焼き芋：11/21 におやつとして 15 食提供。
- ・餅つき：12/26 におやつとしてきな粉餅を 16 食提供。
- ・外食ツアー：4/1(11 名)、6/3(15 名)、9/21(10 名)、11/28(11 名)、1/13(10 名)、2/13(10 名)、延べ 67 名が参加。

表 19 実施した食事サービス

月	行事食	特別食
4 月	お花見弁当	
5 月		お祝い膳(3 月～5 月の誕生日)30 食
6 月		
7 月	流しソーメン 5 食(他入居者は食堂にて)	
8 月	納涼祭(屋台料理)	お祝い膳(6 月～8 月の誕生日)28 食
9 月	敬老のお祝い膳	
10 月	秋の味覚祭 (焼きサンマ) 18 食	

	(デイ利用の入居者除く)	
11 月	焼き芋 15 食	お祝い膳(9 月～11 月の誕生日)28 食 刺身食 (20 食)
12 月	クリスマスディナー きな粉餅 16 食	刺身食 (19 食)
1 月	お雑煮・おせち (1/1 朝昼)	刺身食 (19 食)
2 月	ぶりづくし料理	お祝い膳(12 月～2 月の誕生日)29 食 刺身食 (12 食)
3 月		刺身食 (17 食)

<目標>

- ・通常の食事(朝・昼・夕)に加えてアラカルトメニュー(有料)を提供し、入居者に好きな物を追加で自由に選んで食してもらうことで食事の満足度の向上を図る。

<結果>

- ・延べ 900 食、1 日あたり 2.5 食の利用があった。

②介護予防

<目標>

- ・施設での自立生活の継続には心身機能の維持・向上が必要であり、介護予防的支援が必要となってくる。そのため、入居者の運動不足の解消と健康増進を目的に運動機会を定期的に設け、心身機能の低下予防に繋がるよう努めていく。

<結果>

- ・軽体操：週 1 回 382 人の参加 (1 回あたり 7.3 人)
- ・ウォーキング：週 1 回 ※月 1 回は施設周辺のゴミ拾いを行う
延べ 164 名の参加 (1 回あたり 4.6 名) うち、11 月に 5 名がゴミ拾いに参加。
- ・公園ウォーキング：月 1 回 施設近隣の公園まで外出
5/22(6 名)、6/3(6 名)、9/7(5 名)、延べ 17 名が参加。
- ・ラジオ体操：毎日 9：25 より毎朝館内放送でラジオ体操を流す形のため、参加人数は不明であるが、毎回 3～4 名程度の入居者が廊下で体操を行っている。(居室内で参加している入居者もあり)

③レクリエーション

<目標>

- ・「楽しみ」のある施設生活を送ることができるよう、各種レクリエーションを余暇活動として提供し、入居者間の交流促進と気晴らしを目的に余暇活動の機会として各種レクリエーションを提供する。

<結果>

- ・映画鑑賞会：月1～2回 延べ204名が参加（1回あたり8.5名）
- ・壁面飾り(七夕、納涼祭、ハロウィン、クリスマス)：
 - 七夕：6/2、9の2日間、延べ30名が参加。
 - 夏祭り飾り：7/21、8名が参加。
 - Xmas飾り：11/17、10名参加。
 - 二文祭り作品作り：2/15、23の2日間、延べ15名が参加。
- ・ドライブ 草花の開花時期に応じて
 - 花見ドライブ：4/1、11名参加。
 - 紫陽花ドライブ：6/3、12名参加。
 - 紅葉ドライブ：11/28、11名参加
 - 梅見ドライブ：2/13、10名参加。
- ・ちょっと居酒屋 3ヵ月に1回：5/10(20名)、9/19(12名)、3/13(16名)、延べ48名参加。

④季節行事・外出活動

<目標>

- ・施設生活はともすれば単調になりがちであるため、季節にちなんだ行事を定期的に行き、季節感を感じてもらい、また、外出支援の一環として外出活動を企画し、入居者同士が楽しく交流できる機会を設ける。

<結果>

- ・季節行事の開催

表 20 季節行事の開催

実施日	内容	参加人数	備考
9月5日	花火大会	18名	
8月18日	納涼祭	29名	
9月15日	敬老会	29名	
12月24日	クリスマスディナー	29名	
1月1日	新年会	27名	
1月6日	初詣（穴澤天神）	9名	
2月3日	節分会	16名	

- ・外食ツアー（2～3ヶ月に1回行なう）：4月（11名）、6月（15名）、9月（10名）、11月（11名）、1月（10名）、2月（10名）の計5回延べ67名が参加した。
- ・日帰りバスツアー（年1～2回行なう）：4/25箱根 13名参加。 10/24山梨 17名参加(うち2名は家族)。

⑤地域交流・社会参加

<目標>

- ・地域社会との関わりは入居者の地域における役割の創出に繋がり、生きがいや励みになるため、自立支援と介護予防を目的に地域交流・社会貢献活動の場に参加していく。

<結果>

- ・地域行事への参加(防災訓練、文化センター作品展、地域のお祭り等)：
令和7年3月8日、9日の第二文化センターの作品展に入居者の作品を出展した。
 - ・地域貢献活動への参加(やのくち子ども食堂)：延べ97食を提供、1回の開催につき8食を提供した。入居者は毎回3～4名が参加して地域の子供達との交流を図った。
- ・地域の社会資源の活用(エイトピア工房の菓子、そらcaféのクレープ等の施設内での販売)
エイトピア工房：月1回の頻度で計12回開催した。
そらcaféクレープ：月1回の頻度で計12回開催した。

⑥健康管理

<目標>

- ・入居者の健康状態の把握及び疾病の早期発見のため、健康相談の機会を設け入居者の健康管理を行なう。

<結果>

- ・看護師による健康相談日を月2回設け入居者の健康管理に努める：月平均10名程度の参加があり。また、普段あまり参加しない入居者には看護師が訪室して体調確認を適宜行った。
- ・入居者健康診断を年1回行ない、健康維持と疾病の早期発見に繋げる。：令和7年2/12に日本介護福祉施設健診協会にて実施。入居者28名が受診 ※未受診者2名は入居から3ヵ月以内のため免除。
- ・感染症の予防のためインフルエンザの予防接種を行なう(毎年11月頃予定)。：かじわらクリニックへ依頼し、インフルエンザ予防接種11/12に実施。入居者24名が接種。(他の入居者はかかりつけで接種)

⑦苦情解決・相談

<目標>

- ・苦情解決委員会を設置し、苦情の早期解決及び予防対策を講じる。
- ・意見箱を設置し、ご入居者からの個別の意見や要望を聞き取り不満解消や改善に繋げる。
- ・満足度調査を年1回行ない、ご入居者のニーズを把握し、施設運営に反映させる。
- ・家族・保証人会を年1回(9月頃)開催し、運営面の理解や緊急時の対応等の協力を得られるよう努め、職員と保証人間の連携を深める。
※家族・保証人会の開催についてはコロナ感染状況・情勢により判断する。

<結果>

- ・令和7年3/10に委員会開催。苦情申し立て(0件)や意見箱に寄せられた意見について(1

件)、アンケート結果等について委員へ報告を行った。

- ・令和 6 年度の意見箱への意見は計 1 件寄せられた。食事に関する要望であったため食事会議にてレパスト職員へ報告、改善を依頼した。
- ・満足度調査を 12 月に実施。1 月の懇談会にて集計結果について報告を行った。運営に係る意見については次年度の事業計画へ反映させた。
- ・家族・保証人会を 11/10 に実施。入居者の保証人/家族 9 名(8 家族)が参加。運営報告や年中行事の参加状況の様子紹介、意見交換を行った。

⑧環境整備

<目標>

- ・衛生保持のため、各種検査及び清掃を定期的実施する。
レジオネラ検査年 2 回 水質検査年 1 回 受水槽清掃年 1 回 排水管清掃年 1 回
害虫駆除年 2 回 ワックス清掃年 1 回 ろ過機ろ材交換 5 年に 1 回(前年度実施済)

<結果>

表 21 実施した各種検査及び清掃

日程	内容	頻度	業者
9月12日 3月18日	レジオネラ検査	年 2 回	一般財団法人東京顕微鏡院
9月12日	水質検査	年 1 回	一般財団法人東京顕微鏡院
2月27日	受水槽清掃	年 1 回	(有)タルヤ設備工業所
6月24日 12月25日	害虫駆除(樹木及び厨房の害虫駆除)	年 2 回	(株)京王消毒
12月29日	ワックス清掃	年 1 回	(有)スポーツファングメンタルズ

<目標>

- ・施設中庭及び建物内の保全と管理を行ない施設美化に努める。
- ・中庭植木の剪定 施設内及びベランダ通路の清掃

<結果>

- ・施設中庭植木の剪定及び除草を定期的実施した。
- ・施設のベランダ通路の清掃を 3 ヶ月に 1 回の頻度で実施した。

(2)施設運営

①入居稼働率の維持・向上

<目標>

- ・ケアハウス入居稼働率 99.3%を目指す。

<結果>

- ・入居稼働率 99.4.%で目標値達成。3 名の退所がありうち 1 名は急逝されたため空室がひと月出たものの、他 2 名は入退所が円滑に進んだため目標値達成に至った。

<目標>

- ・6年度 30 人以上の待機登録者を確保する。

<結果>

- ・待機者は 32 名で目標値達成。今年度は 18 名の見学があり、待機登録者は 7 名。

表 22 年間入退所状況（令和 7 年 3 月 1 日現在）

（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
入居者数	30	30	30	30	30	29	29	30	30	30	30	30	358	29.8
新規入居者数	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3	0.3
入居理由	老後の安定のため												0	0.0
	住宅事情												0	0.0
	家庭事情					1							1	0.1
	経済事情												0	0.0
	本人の希望						1	1					2	0.2
	その他												0	0.0
退去者数	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3	0.3
退去理由	老人ホームへ転所					1	1						2	0.2
	病院への入院												0	0.0
	家庭引き取り												0	0.0
	死亡					1							1	0.1
	その他												0	0.0
空室状況	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0.2
入居率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	96.7%	96.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		99.4%

②サービス提供補助金や助成金の確保

<目標>

- ・東京都からのサービス提供補助金、共同募金会からの助成金は運営・経営上、大きな財源の一つとなることから、補助金の適正運用や新規での加算や助成金の申請により確保を図る。

<結果>

- ・共同募金会の助成金(B 配分)を申請申請。用途は物品購入(厨房冷蔵庫)とし、300,000 円の配分が決定した。
- ・費用補助金の加算として①民間施設給与等改善費管理費特別加算(子ども食堂の実施)の申請により補助金額の 1%相当(約 300,000 円)、②施設機能強化推進費加算(地域交流イベントの開催)にて 300,000 円の増額に繋げた。なお、入所者処遇特別加算(60 歳以上の職員

雇用)は対象者不在のため申請はせず。

③災害対策、避難訓練

<目標>

- ・消防法に基づき、消防署や地域と連携し毎年2回、地震や火災、水害発生を想定した総合防災訓練を行い、また施設内の消防設備の把握や防災計画を周知し、迅速かつ的確な救助や、ご入居者が円滑に避難できるように自主避難訓練を年2回行う。避難経路の確保とご入居者への周知徹底を図り、防災設備業者（年2回）と防火管理者（毎月1回）消防設備点検を行い、設備や環境に不備が生じないように管理する。

<結果>

表 23 実施した防災訓練及び自主避難訓練

日程	訓練項目	内容	参加人数
5月30日	総合防災訓練	夜間火災想定	24名
9月5日	自主避難訓練	水害想定訓練	42名（入居者12名、デイ利用者30名）
10月31日	総合避難訓練	日中火災想定	20名
3月27日	自主避難訓練	地震想定訓練	40名（入居者14名、デイ利用者26名）

<目標>

- ・火災や水害、震災等の大規模災害に備えて策定したBCPを用いて災害時の初動対応やライフライン復旧までの指針として活用する。

<結果>

- ・自然災害及び感染症のBCPを策定。9/5にBCPを用いた自然災害訓練(水害想定)に14名、3/8に感染症訓練(陰圧ブースの設置)に19名が参加した。

<目標>

- ・自然災害により電気や食料などのライフラインの供給ができなくなることが想定されるため、非常備蓄物に関して定期的な確認及び入れ替えを行い、50名分3日分の水分・食糧を常時備蓄し、献立表を立てるなど災害時に対応ができるよう整備を図る。
また、備蓄物の保管場所が点在しており管理が不十分であるため、備蓄倉庫を新設して一括保管とし非常時に迅速に活用できるように整備する。

<結果>

- ・備蓄の食料品を長期保管ができ調理が簡単な食品へ入れ替えを行った。また、倉庫を施設敷地内（北側非常階段付近）へ設置して備蓄品の保管場所を確保した。

④広報活動

<目標>

- ・「ハーモニー松葉」のパンフレットを包括支援センターや医療機関、公共施設などに配布し活動内容を周知する。またホームページのブログを活用し本施設のPRに努める。

＜結果＞

- ・施設ホームページのブログへ施設の催しや活動の様子について掲載して施設のPRを行った。また、施設検索サイト「ライフフル介護」を活用して見学者を募った。なお、ライフフル介護経由での問い合わせ(資料請求、見学含む)は21件あった。

⑤内部監査などによるレセプト点検、内部牽制機能強化

＜目標＞

- ・健全な運営・経営を行うために、運営基準等に則り運営や請求のレセプト点検を行うとともに職員の主従体制による業務執行により内部牽制機能の強化を図る。

＜結果＞

- ・作業に対して複数の担当者を配置し、レセプト点検を含め内部牽制を行った。

⑥ケアハウス会議

＜目標＞

- ・隔月1回生活相談員・介護職員・用務員・事務員を招集し、ご入居者へ状況把握事項や、利用者処遇、行事内容、環境面についての協議・検討し、サービスの向上を目指す。

＜結果＞

- ・5月、8月、10月、12月、2月に開催。

部署内の情報及び課題、入居者処遇等について共有・協議を行いサービスの質の向上に繋がるよう努めた。

⑦地域包括ケアシステム構築への取組み

＜目標＞

- ・入居者がいつまでも安心して住み慣れた矢野口地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続け暮らすことができるように、施設が地域の問題を捉え、地域の問題を地域住民である入居者の問題として介入していく。

＜結果＞

- ・つながろう矢野口会議に施設代表として施設長が5/13に参加し、地域における課題について協議及び意見交換を行った。

2. 老人デイサービスセンター事業

＜事業方針＞

- ① 利用者が安心・安全に過ごせるような環境をつくる。
- ② 個別ケアを推進し、個々の利用者に適したケアを実施する。
- ③ 質の高いサービスを提供する。自立支援、介護予防を支援する体制づくりに努める。
- ④ PDCA をまわしトライアンドエラーで挑戦する。
- ⑤ 福祉ニーズの変化に対応していく。
- ⑥ 地域貢献を行い、地域で必要とされる社会資源となる。

（１）運営・経営の改善

＜目標＞

- ① ２０２４年度の介護保険制度改正により、運営経営に大きな影響を及ぼす可能性もあるため介護保険法や運営基準に則り、安定化と健全化につなげる。
- ② 登録者数を増加していけるよう、運営規定を改正し、定員を３５名から３８名に変更する。
- ③ 食材料費等の物価高を勘案し、令和６年４月より食費などの見直し改定を行い、経営の適正化につなげる。

＜結果＞

- ① 介護保険制度改正や物価高により、運営経営面で大きな影響を受けたが、寄附や助成金の活用による施設整備や、加算算定の適正見直し、ICT 化による業務効率化を図り、安定化と健全化につなげた。
- ② 定員３８名に変更し営業活動や空き情報等を定期的に発行し、登録者の増加に努めた。
結果として１日当たりのご利用者は大幅に増加したが、新規登録者は２６名、終了者は２５名であった。
- ③ 昼食代を委託業者の食材料費の高騰等に合わせ、昼食代を１００円増額し、７００円に変更し、経営の適正化につなげた。

（２）介護予防体操

＜目標＞

ご利用者にとって運動は在宅生活を送る上で介護予防に繋がり、転倒や機能面低下を防ぎ、元気に生活を送る上で大変効果的なプログラムであるため、認知症予防体操や転倒骨折予防体操、口腔体操などを行い、ご利用者が元気に在宅生活を送れるよう支援していく。

- ① 認知症予防体操として、学習療法を取り入れや難読漢字や計算問題を行う。またご利用が意欲的に参加し問題を選択できるように準備する。
- ② 介護予防体操として、ボールやセラバンドを使用した転倒骨折予防体操を行い、ご利用者の転倒や骨折予防に努める。
- ③ ご利用者が楽しめる歌に合わせた体操を１日１曲（きよしのずんどこ節、憧れのハワイ航路など）取り入れ行う。

- ④ 口腔機能向上体操を昼食前に行い、嚥下や咀嚼機能の維持・向上を図り、安楽に食事が摂取できるよう支援する。

＜結果＞

- ① 午前中を中心に運動プログラムを提供し、ラジオ体操を取り入れ、ある程度一定量の運動が行えるよう努めた。
- ② 介護職員によって体操の提供時間がまばらだった為、介護予防体操のマニュアルを作成し40分間は必ず実施するよう意識統一して対応した。
- ③ 健康運動指導士を講師にお招きし、令和6年1月に介護職員や看護師を対象に介護予防体操研修を内部研修で実施し、介護予防体操の基本や、歌の体操などをご利用者に提供できるよう努めた。

（3）レクリエーション

＜目標＞

- ① ノーマライゼーションの考えを基本とし、ご利用者が、生きがいのある快適で豊かな日常を送れることができるようサービスを実施する。これらの活動を通じて仲間をつくり、若いや障がいの受容、心身機能の維持・向上、自身の回復や情緒安定を図る。レクリエーションは、音楽活動、創作活動、行事的活動、体力、機能維持の為に必要な運動を行う。
- ② 個々の能力を活かし、「やりがい」や「生きがい」を感じ、参加したことが目に見えるレクリエーションを行う。また、レクリエーションの実施にあたっては、「ご利用者が満足できる」、「楽しく笑う」を重視し、作業療法的な要素を取り入れ、精神面の安定や認知面低下予防につなげる。
- ③ レクリエーションの事業計画を年間計画、月間計画、季節計画等を作成して、ご利用者が計画的に利用の曜日やレクリエーションを行い選択できるようにする。
- ④ ご利用者様の状況やご本人の希望のレクリエーションが叶えられるよう、グルーピングと基本プログラムのどちらかに選択し参加できるよう実施する。
- ⑤ 基本プログラムとは別に、ご利用者の介護度の差や、個人の趣味や特技、生きがい支援として多様化するニーズに応えるため、レクリエーションのグループ制を導入し、アクティビティサービスの充実を図っています。また機能訓練として行うことで介護予防に繋がるようなプログラム提供に結びつけていく。
- ⑥ 季節行事・外出活動等
ご利用者が1年間を通して楽しくご利用できるよう、季節にちなんだ行事を定期的を開催する。

＜結果＞

- ① ノーマライゼーションの考えを基本とし、全てのご利用者がプログラムに参加できるよう職員工夫し、ご利用者同士が活動を通じて仲間をつくり、楽しく元気に過ごせるよう努めた。
- ② ご利用者やご家族が「やりがい」や「生きがい」を感じ、参加したことが目に見えるレク

リエーションを意識し提供した。また、レクリエーションの実施にあたっては、「ご利用者が満足でき作業療法的な要素を取り入れ、精神面の安定や認知面低下予防につながるよう支援を行った。

- ③ レクリエーションの事業計画を年間計画、月間計画、季節計画等を作成して、ご利用者が計画的に利用の曜日やレクリエーションを行い選択できるようにする。
- ④ ご利用者様の状況やご本人の希望のレクリエーションが叶えられるよう、グルーピングと基本プログラムのどちらかに選択し参加できるよう実施する。また、
- ⑤ 基本プログラムとは別に、ご利用者の介護度の差や、個人の趣味や特技、生きがい支援として多様化するニーズに応えるため、レクリエーションのグループ制を導入し、アクティビティーサービスの充実を図っています。また機能訓練として行うことで介護予防に繋がるようなプログラム提供に結びつけていく。
- ⑥ 季節行事・外出活動等
ご利用者が1年間を通して楽しくご利用できるよう、季節にちなんだ行事を下記の内容で定期的開催した。

表 24 実施した季節行事・定例行事

実施日	内容	参加人数
4月2～4日 (3日間)	お花見ドライブ（府中の東郷寺、若葉台、調布飛行場）	1日平均29名 計88名
4月9日	エイトピア工房お菓子の販売会	
5月2～4日 (3日間)	こいのぼり見学（上谷戸大橋、向陽台、大塚牧場）	1日平均25名 計76名
5月21日	エイトピア工房お菓子の販売会	
6月4、5、7日 (3日間)	紫陽花バスツアー（川崎市多摩区妙楽寺）	1日平均26名 延77名
6月10日	こめのこ cafe お菓子の販売会	
6月11日	エイトピア工房お菓子の販売会	
7月9日	エイトピア工房お菓子の販売会	
7月17日	こめのこ cafe お菓子の販売会	
7月18日	第1回地域交流イベント 体操＆歌の祭典	ご利用者31名 地域の方44名 計75名
8月11日	エイトピア工房お菓子の販売会	
8月26日	こめのこ cafe お菓子の販売会	
9月10日	エイトピア工房お菓子の販売会	
9月16日	敬老会（職員によるラインダンス、利用者全員にお茶のプレゼントを配布）	31名
9月20日	こめのこ cafe お菓子の販売会	
10月8日	エイトピア工房お菓子の販売会	
10月30日	こめのこ cafe お菓子の販売会	
11月7日	第2回地域交流イベント 体操＆お汁粉会	ご利用者31名 地域の方38名

		計69名
11月15日	こめのこ café お菓子の販売会	
11月19日	エイトピア工房お菓子の販売会	
11月25～27日 (3日間)	紅葉ドライブツアー（多摩市メタセコイア通り）	1日平均28名 計83名
12月10日	エイトピア工房お菓子の販売会	
12月18日	こめのこ café お菓子の販売会	
12月23～25日 (3日間)	クリスマス会（ピング大会、女性職員によるダンスと男性職員による二人羽織を披露、ボラによるフラダンス、ご利用者全員にプレゼントで靴下を配布）	1日平均30名 計91名
12月26日	餅つき	ご利用者32名
1月4～10日 (6日間)	初詣（穴澤天神社）	1日平均13名 計75名
1月23日	第3回地域交流イベント 転倒骨折予防体操＆おやつ会	ご利用者31名 地域の方26名 計57名
1月27日	こめのこ café お菓子の販売会	
1月28日	エイトピア工房お菓子の販売会	
2月18日	エイトピア工房お菓子の販売会	
2月28日	こめのこ café お菓子の販売会	
3月8～9日 (2日間)	第二文化センター祭作品展示	
3月11日	エイトピア工房お菓子の販売会	
3月20日	第4回地域交流イベント体操＆歌の祭典 こめのこ café お菓子の販売会	ご利用者29名 地域の方31名 計60名
3月31日	お花見ドライブ（味の素スタジアム周辺）	ご利用者27名

（４）食事サービス

<目標>

- ① 食べる楽しみを高めるため、昼食前に 1 日のリーダーが食事の内容説明を行い、ご利用者の満足度を向上する。
- ② 目で楽しみ、ご利用者自ら選択する食事を味わうため、機能訓練的な要素で通常の食事と異なる「バイキング形式」を毎月 1 回は取り入れるなどして、食事の楽しみを図る。
- ③ ご利用者からのニーズに応え、毎月 1 日は機能訓練も兼ねて回転寿司やレストラン等への「外食ツアー」にて食事のバリエーションを楽しんでいただく。
- ④ ご利用者の出身地や故郷を聞きとり調査し「郷土料理」（ほうとうや沖縄料理、おばんざい等）、また世界各国の「世界食」（ボルシチやインドカレー等）など食事を行います。食事の委託会社とも連携して月に 1 度程度提供する。
- ⑤ ご利用者の満足度の向上を目指し、昼食時の雰囲気作りと食事量の観察などを兼ねてご利用者と職員と一緒に昼食を摂る。

- ⑥ 安全で安心な食事の提供と、献立作成や調理方法の見直しに役立てるため、食事会議を月1回開催し、食の安全管理と利用者に適した食事サービスを行う。
- ⑦ 厨房調理職員は、週1度は食事時間にお越しいただき、利用者様の摂取状況、残菜調査や意見交換などを行っていただき食事サービスの向上につなげる。
- ⑧ ご利用者が体調や献立に合わせて食事量を調節できるよう主食の盛り付けやおかわりなどできるよう柔軟な食事提供を目指す。
- ⑨ 物価（食材料費）の高騰に対応し、東京都への申請後、昼食代を1食600円から700円（100円増額）にご利用者、ご家族の同意を得て値上げする。
- ⑩ 物価高による値上げ後も食事の質を下げず、ご利用者の80%以上が満足いただける内容を食事会議などで協議し提供する。

<結果>

- ① 昼食前に1日のリーダーが食事の内容説明を行い、ご利用者の満足度が向上するよう努めた。
- ② 「バイキング形式」の食事については、実施を次年度に見送ることとした。
- ③ 「外食ツアー」も次年度から少人数で再開することとし、今年度は実施を見送ったが、施設内でのイベント食やおやつ作り、ご当地おやつの提供などを下記の通り実施し、食事サービスの満足度向上に努めた。

表 25 実施した食事・おやつイベント食

実施日	イベント食名	内容
4月1～3日 (3日間)	お花見弁当デー	お花見弁当を3日間、日替わり内容で提供
4月16日	そら cafe クレープ	手作りクレープをおやつで提供
4月29日	ご当地おやつ（北海道）	北海道のお菓子 蔵生サブレを提供
5月15、17日 (2日間)	おやつ作り	たこ焼き作り
5月23日	そら cafe クレープ	手作りクレープをおやつで提供
5月29日	ご当地おやつ（東北地方）	宮城県の銘菓 萩の月を提供
6月10日	こめのこ café	米粉の蒸しパンを提供
6月17、20日 (2日間)	おやつ作り	フレンチトースト作り
6月19日	ご当地おやつ（関東地方）	東京のお菓子 東京ばな奈を提供
7月6日	流しそうめん	ケアハウスと合同で、夏の風物詩を楽しんでいた
7月17日	こめのこ café	米粉の蒸しパンを提供
7月18日	そら cafe クレープ	手作りクレープをおやつで提供
7月22、23日 (2日間)	おやつ作り	ベビーカステラ作り
7月27日	ご当地おやつ（中部地方）	長野県のおやきを提供
8月22、23日 (2日間)	おやつ作り	白玉団子作り
8月26日	こめのこ café	米粉の蒸しパンを提供

8月28日	そら cafe クレープ	手作りクレープをおやつで提供
9月19、21日 (2日間)	おやつ作り	お好み焼き作り
9月20日	こめのこ cafe	米粉の蒸しパンを提供
9月24日	そら cafe クレープ	手作りクレープをおやつで提供
10月15、16日 (2日間)	おやつ作り	かぼちゃのソフトクッキー作り
10月20日	こめのこ cafe	米粉の蒸しパンを提供
10月24日	ご当地おやつ(近畿地方)	大阪の蓬莱 551 の豚丼を提供
10月28日	そら CAFÉ クレープ	手作りクレープをおやつで提供
11月14日	そら CAFÉ クレープ	手作りクレープをおやつで提供
11月15日	こめのこ cafe	米粉の蒸しパンを提供
11月21日	焼き芋大会	ケアハウスと合同で、秋の風物詩を楽しんでいた
11月22、23日 (2日間)	おやつ作り	さつま芋けんぴ作り
11月29日	ご当地おやつ(近畿地方)	和歌山の銘菓かげろうを提供
12月11日	そら cafe クレープ	手作りクレープをおやつで提供
12月14、16日 (2日間)	おやつ作り	たこ焼き作り
12月18日	こめのこ cafe	米粉のシフォンケーキを提供
12月23~25日 (2日間)	クリスマス会	クリスマスケーキとシャンメリーを提供
12月26日	餅つき	ケアハウスと合同で、おやつでお汁粉を提供
1月15、16日 (2日間)	おやつ作り	オムレット作り
1月18日	鰯の解体ショー	ケアハウスと合同で、富山県氷見の鰯の解体ショーと刺身、鰯大根など提供
1月23日	そら cafe	手作りクレープをおやつで提供
1月27日	こめのこ cafe	米粉のシフォンケーキを提供
2月10、12日 (2日間)	おやつ作り	フレンチトースト作り
2月17日	ご当地おやつ(四国地方)	愛媛県の銘菓 一六タルトを提供
2月18日	そら cafe	手作りクレープをおやつで提供
2月28日	こめのこ cafe	米粉のシフォンケーキを提供
3月7日	そら cafe	手作りクレープをおやつで提供
3月14、15日 (2日間)	おやつ作り	桜餅作り
3月20日	こめのこ cafe	米粉のシフォンケーキを提供
3月27日	ご当地おやつ(九州地方)	鹿児島県のさつま揚げを提供

④ 横手焼きそば(秋田県)やシスコライス(函館)などご当地メニューを定期的に献立に導入し、月1度程度導入した。

- ⑤ ご利用者と職員と一緒に昼食を摂ることを目指したが、おやつ作りやご当地おやつと一緒に食べることから再開し、次年度から本格的に再開することとした。
- ⑥ 毎月1回の食事会議に正職員が出席、もしくはご利用者からの意見を集約し提案することで、食事サービスの改善に努めた。
- ⑦ 厨房調理職員に、残菜調査や意見交換などを行っていただいたが、次年度からは週1回は食事サービスの向上につながるよう食事摂取状況を確認いただく。
- ⑧ 男性のご利用者や、体調不良者など献立に合わせて食事量を調節できるよう主食の盛り付けや、おかわりなどできるよう柔軟な食事提供を目指し、満足度向上に努めた。
- ⑨ 物価（食材料費）の高騰に対応し、東京都への申請後、昼食代を1食600円から700円（100円増額）にご利用者、ご家族の同意を得て値上げした。
- ⑩ 物価高による値上げ後も食事の質を下げず、食事会議などで協議し提供したが、満足度は62.9%で目標の80%には届かなかった。

（5）運営

＜目標＞

- ① 家族懇談会の実施（年1回）
毎年2月に家族懇談会を開催し、デイサービスの見学や意見交換を通して、運営面の理解を得て、抱えている介護の悩みやデイサービスへの要望などを対面でお伺いする。

＜結果＞

- ① 令和7年3月8日（土）に家族懇談会を開催し、17名のご家族にご参加いただけた。
昼食を召し上がっていただいた後、動画での運営状況の報告、ご家族と職員とのグループでの意見交換や見学会を行い、多くの方にご参加と運営へのご理解をいただけた有意義な会となった。

（6）安全運転講習会と送迎に関する会議の実施

＜目標＞

- ① 運転手を対象に安全対策講習会を年1回実施する。軽微な事故から大きな事故まで予防するためのルートの確認や取り決め、介護職員と運転手との連絡調整のため会議を年4回実施する。

＜結果＞

- ① 令和7年2月に運転手を対象に、福祉車両のリフト操作について安全対策講習会を講師をお招きし開催し、車椅子ご利用者の対応を安全な対応を周知した。
- ② 運転手とのミーティングを毎朝開催し、当日の運行状況やご利用者の出欠を確認することで安心・安全な運転サービスの提供に努めた。
- ③ 令和5年度は車両事故7件（自損含む）ヒヤリハット1件であり、安全管理体制を強化し防止に努めたが、令和6年度も車両の事故6件とヒヤリハット3件と改善に至らなかった。
- ④ 運転手会議を令和6年6月、9月、12月、令和7年2月の計4回実施し、運転手との

情報共有や安全運転への啓発に努めた。

- ⑤ 利用者満足度調査では、送迎に関する満足度の安全性は 72.2%、時刻にいたっては 74.2%で前年比 15%近く上昇した。

（７）人材育成・サービスの質の均一化

- ① プリセプター制度などを活用し、新規採用の職員に対して経験のある先輩職員がマンツマン（同じ業務を一緒に行う）である一定期間研修を担当する。
- ② 新入職員のペースに合わせて、新入職員自らが主体的に取り組めるようわる。ご利用者の看護・ケアを新入看護・介護職員とともに提供しながら、仕事を通じてアセスメント、介護技術、対人関係、医療や介護サービスを提供する仕組み、職員としての自己管理、就業諸規則など広範囲にわたって手本を示し、OJT 指導計画に沿って指導を行っていく。
- ③ 他部署や他職種の職員も、メンターとして新人職員へのサポート体制を強め、新規採用職員が安心して業務に取り組めるよう支援する。
- ④ 新規採用職員については、正職員を中心にオリエンテーションや新人研修を実施し、働きやすい福祉の職場宣言事業所として取り組む。

＜結果＞

- ① 新人職員から随時相談しやすい環境を整え、育成に努めた。プリセプター制度を実施していたが、現在は中堅職員によるエルダー制度を活用し、新規採用職員を育成した。
- ② 新規採用職員経験や成長過程を踏まえて正職員を中心に、OJT による育成計画や指導方法を見直し、自立業務遂行が行えるよう指導を行った。
- ③ 正職員が中心となり、新規採用職員のみならず他部署や他職種の職員に対しても、メンターとしてサポート体制を強め、安心して業務に取り組めるよう支援を行った。
- ④ 働きやすい福祉の職場宣言事業所として、新規採用職員には、正職員各々が担当した入職時オリエンテーション及び入職時研修を実施し、職場や業務に円滑に馴染めるような仕組みを構築し実践した。

（８）職員の資質向上のための取り組み

＜目標＞

- ① 職員の資質向上のため、正職員、非常勤関わらず外部研修を積極的に受講し、研修内容をデイミーティング内で他の職員へ伝達講習し、多職種の職員間で情報共有する。

＜結果＞

- ① デイサービスの生活相談員、介護職員及び看護職員を外部研修に積極的に派遣し、デイミーティング内で他の職員に伝達講習や報告を行い、情報共有した。
- ② 今年度は実務者研修 2 名と、資生堂の美容に関する認定講座に 1 名の介護職員計 3 名に資格取得のための支援を行った。

（９）運営体制の充実と離職率の低下

＜目標＞

- ① 職員採用にあたっては、次世代の職員育成を視野にバランスのとれた体制づくりを推進し、モチベーションの向上を図る。
- ② 初任者研修、実務者研修、介護福祉士や介護支援専門員、社会福祉士等の資格取得支援を行い、組織としてキャリアパス体制の構築を図る。
- ③ 常に職員とのコミュニケーションやメンタルヘルスケアなどに取り組み、離職率を 10% 以下とし安定した運営、経営に結び付ける。

<結果>

- ① 将来の人財発掘として看護学生や職場体験などの受け入れを積極的に行い、職員に関しても育成を視野にバランスのとれた体制づくりを推進し、モチベーションの向上を図った。
- ② 初任者研修、実務者研修、介護福祉士や介護支援専門員、社会福祉士等の資格取得支援を行い、職員個々のスキルアップや資格取得へのモチベーション向上を図った。
- ③ 職員とのコミュニケーションや、メンタルヘルスケアやアンガーマネジメントなどの研修に取り組み、離職率 10%以下を目指したが、デイサービスの令和 6 年度の離職率は 13%で惜しくも目標値を達成できなかったが、人財確保については新規採用者は 9 名と安定した確保ができ、運営の安定化には結び付いた。

(10) ボランティアの受け入れ

<目標>

- ① 業務負担の軽減や専門職としてのスキルの活用を図るため、介護周辺業務やお茶出し、レクリエーションの補助など、介護支援ボランティア制度を活用するなど改善する。
- ② 地域活動団体と良好な関係を築き、押し花・生け花・ピアノ音楽会・カラオケ・マジックショー・フラダンス等の受け入れを行い、サービスの向上につなげる。

<結果>

- ① 稲城市社会福祉協議会のボランティアセンターと連携し、お茶出しについて介護支援ボランティアを活用したり、学校に不登校の生徒への社会復帰支援のための用務ボランティアを積極的に受け入れるなど、介護周辺業務（お茶出しやレクリエーション補助等）の職員の業務負担軽減などにつなげた。
- ② 地域団体や住民の方との関係づくりを大事にし、ピアノや押し花、生け花や書道等の先生にご指導をいただき、マジック同好会や二胡演奏サークルなどをお招きし、ご利用者に披露していただき、満足度を高めた。

(11) <目標値ご利用者数と収益>

健全な運営・経営を行ない、サービスを向上させるためには、一定のご利用者数と収益の確保が必要である。このことから、次のご利用者目標値を設置する。

1 日平均ご利用者数：30 名

年間ご利用者数：9,210 名（年間営業日数は 307 日で試算）

経常増減差額：650 万円

年間利用者数の目標値

<目標>

健全な運営・経営を行ない、サービスを向上させるためには、一定のご利用者数と収益の確保が必要である。このことから、次のご利用者目標値を設置する。

<結果>

表 26 年間利用者数の目標値と実績

	1日平均延利用者数	年間延利用者数	備考
目標値	30.0名	9,210名	※ 年間営業日数は307日で計算
実績	30.7名	9,449名	※ 年間営業日数は308日で計算
差	+0.7名	+239名	

- ① 令和5年度目標値の年間延利用者数 8,596名に対して、実績値は192名少ない8,404名であった。
- ② 1日平均延利用者数 30.0名の目標値に対して、実績値は0.7名多い30.7名であった。
- ③ 令和5年度の1日平均延利用者数 27.3名と比較し、令和6年度は3.4名の増加であった。

表 27 令和6年度利用状況 (令和7年3月31日現在)

月	実利用者数	延利用者数	平均利用者数	平均介護度	新規利用者 (介護度変更含む)	終了利用者 (介護度変更含む)
4	92	748	28.8	1.6	2	2
5	86	766	28.4	1.6	1	4
6	88	744	29.8	1.6	1	1
7	93	852	31.6	1.6	3	3
8	91	831	30.8	1.6	1	1
9	93	804	32.2	1.5	4	2
10	95	856	31.7	1.5	5	5
11	92	828	31.8	1.5	2	0
12	94	759	31.6	1.5	1	3
1	93	719	30.0	1.5	2	0
2	89	748	31.2	1.6	2	1
3	90	794	30.5	1.6	2	3
合計	-	9,449	30.7	1.6	26	25

Ⅲ. 今後の課題と方針

令和 6 年度は、財務的な制約の中で、人員配置の強化、ICT 導入、サービス品質の維持向上に努め、当初の各事業の目標は達成した。一方で、人件費構造や職員の高齢化、収支の不均衡による赤字体質といった中長期的課題が顕在化しており、より戦略的な経営と人材確保策と適正な人員配置、柔軟な運営体制の再設計が必要である。

ケアハウス事業について、入居稼働率は 99.4%と非常に高水準を維持し、年度当初に掲げた目標（98.6%）を上回った。待機登録者数も 32 名と目標を達成しており、入退去の管理もおおむね良好に推移した。食事、健康管理、レクリエーション、地域交流など多方面にわたる利用者支援が計画通り実施され、QOL の維持・向上に一定の効果が見られた。

ケアハウス課題としては、利用者アンケートにおいて「食事への満足度」が他項目よりやや低く、内容や食堂環境に対する改善要望が見られたため、利用者への一層の個別支援の工夫が必要である。また、入居者の介護度の上昇により職員の業務負担の増大と職員の増配置が挙げられる。老人福祉法による補助金事業のため、物価高騰や最低賃金上昇に連動した補助金の値上げがなく、コストだけが上がるため、経常増減差額は 1,719 千円の赤字であり、設備更新時の補助金の活用や運営効率の見直しなどの財務的な赤字構造の改善策が急務である。これらの課題に対して、令和 7 年度は①潜在的な入居希望者の確保と入居者満足度の向上②入退去の管理体制を強化③ムリムダムラを無くした堅実な施設運営を方針とした。

デイサービス事業について、介護保険法改正や物価高など運営や経営面で大きな影響があったが、ご利用者へのサービスの充実や信頼性の向上などに努め、大幅なご利用者の増加と事業とサービス目標を達成することができた。

また職員個々の特性や経験値を活かしスキルアップや意識を向上し、ご利用者やご家族に喜んでいただけるサービスを追求し、モチベーションの改善や人財確保や離職率の低下など様々な面で発展につながったが、経営面としては未だ課題を残すこととなった。

デイサービスの課題については、次年度からの中長期計画や事業計画に沿って、①法人が必要とする人財を育成し、組織力やサービスの質を向上し職員一体となりご利用者、ご家族に満足いただけるように努めること。②稲城市をはじめ地域社会にも当事業所のブランドが認知され信頼を得られるよう職員一丸となり取り組んでいくこと。③デイご利用者を定員 38 名に近付け、経営的に右肩上がりとなるように運営を執り図っていく。

令和 7 年度においても、地域福祉の拠点としての使命を果たせるよう、職員一同力を合わせて取り組んでまいりますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上